



ナシ「恵水」樹体ジョイント栽培現地検討会が開催されました

6月20日に、八千代町の現地ナシ園で、「ナシ「恵水」の樹体ジョイント栽培早期多収実証モデル圃場現地検討会」が開催され、県内ナシ生産者および関係機関93名が参加しました。この研修会は、新技術「樹体ジョイント栽培」の導入推進による県育成品種「恵水」の出荷量増大と、儲かるナシ経営体の育成を目的に、茨城県梨組合連合会及び農林振興公社、農業総合センターの共催で開催されました。

普及センターからは、定植4年目となる「恵水」ジョイント栽培実証モデル園の栽培概要や、収穫開始2年目の着果状況、早期新梢確保に向けた試験結果を説明し、早期多収効果を検討しました。

参加者からは、「モデル園の樹体ジョイント栽培は、作業性も良く多収で収益性が良さそう」、「定植後の新梢管理等は大変そうだが早期成園化は魅力」といった声が聞かれ、樹体ジョイント栽培の早期多収効果を実感した様子でした。

普及センターでは、今後も引き続き、実証モデルほ場の栽培支援や収益性の継続確認を行い、「恵水」樹体ジョイント栽培の現地優良事例育成に向けた活動を行っていきます。



JA北つくばとJA常総ひかりでかんしょ栽培ほ場を巡回

6月28日にJA北つくば結城地区管内、また7月5日にJA常総ひかり管内のかんしょ栽培ほ場を、生産者とJA担当者、全農いばらき県西V Fおよび普及センターで巡回しました。

当日はかんしょの生育や病害虫の発生状況、雑草の発生程度などを全員で確認し、高品質生産に向けた今後の対策について情報交換を行いました。本格的に栽培を開始して2年目を迎え、基本的な栽培技術が徹底されるようになり、生育の良いほ場が多くみられました。

普及センターでは当産地でのかんしょ栽培に係る課題を生産者や関係機関と共有し、更なる産地の発展のために課題を克服できるよう支援を行っていきます。



JA常総ひかり営農指導員向け普通作基礎研修を開催しました

6月26日(月)、JA常総ひかり本店大会議室にて、JA常総ひかりのTAC及び若手職員向けの普通作基礎知識研修会を開催し、20名の出席がありました。

内容は水稲・麦・大豆について、各品目ごとに県の奨励品種の特徴や栽培管理のポイントについて説明を行いました。

特に水稲については、来年から飼料用米の交付要件が変わることや認定品種の種子の確保情報、認定されている飼料用米品種などの説明を行いました。

JA常総ひかりでは、7月からR6年度の種子注文が開始されるため、県の認定品種は、管内で最も多く飼料用米として生産される一般品種と同じくらい作りやすい品種なのか、新たに認定される「あきだわら」の栽培特性について質問がありました。

普及センターでは、今後もJA常総ひかりと連携して水稲経営の所得向上に取り組んでいきます。



研修会の様子

6月15日～9月14日は茨城県農薬危害防止運動期間です

茨城県では、農薬の適切かつ安全な使用、使用時の事故防止、周辺への配慮及び飛散防止対策を推進するため、6月15日から9月14日まで、農薬危害防止運動を実施しております。

農薬を扱う際には、以下の2点を徹底しましょう。

1. 農薬のラベルをよく確認して使用すること。
2. 周辺に配慮して飛散を防止すること。

特にクロルピクリン剤の使用時には、被覆が必要です。

農林水産省HP
「農薬の適正な使用について」



農業いばらきWEBサイトでは最新の茨城の農業情報お届け中！

農業いばらきは、WEBサイトで農業に関する特集や技術情報を掲載しています。最新の情報をお届けしていますので、ぜひご活用ください！

農業いばらきWEBサイトはこちらから！

農業いばらき



**熱中症対策のため、こまめな水分補給を心がけましょう
体調が悪くなる前に早めの休憩をしましょう**

